

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター  
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1  
愛知県東大手庁舎 1階  
TEL：052-954-6722  
FAX：052-954-6993  
開館：月～金 10～17時



## タイトル「メディチ像」



ペンネーム K

### <表紙に掲載する私の1点、1枚を募集しています>

あおぞらの表紙にあなたの作成した作品を掲載してみませんか？興味があればご連絡ください。

①作品のタイトル ②説明（30字程度）③掲載するお名前 ④年齢 ⑤連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたはFAX、郵送にてお送りください。

### <編集委員募集のお知らせ>

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

### <発送作業のボランティア募集>

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

6月10日便の予定			6月25日便の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	6月8日（木）	午後	封入作業	6月23日（金）	午後	愛知県被災者支援センター TEL：052-954-6722（渡邊）
発送作業	6月9日（金）	午前	発送作業	6月26日（月）	午前	

3.11から6年たってしまいました。当時、1歳だった娘はもうすぐ8歳です。小学校にも慣れ、小学生の女の子らしいキャップも似合ってきました。相変わらず、私にべったりですが、あと数年で友だちという方がよくなるでしょう。もし原発事故がなかったら、娘との蜜月は別のものになったでしょう。

当時、新しい家への引っ越し準備に追われていました。昔は、海外を行ったり来たりして、いずれは永住することが夢でした。30代でまた学生に戻ったりしましたが、やっと落ち着いて将来が見え始めたころでした。実家など家族のサポートを受けながら、仕事を始める予定で面接を受けていました。いつか第二子が授かることを目標に忙しくも楽しい毎日でした。千葉での生活は、私が使えるお金は少なかったです。しかし、家があり、家族や親せき、友だちが近くにいました。そして、若い（今よりは6歳も）ということが私の財産でした。

現在、名古屋市で娘と2人暮らしです。貧しい生活をしています。離婚して、ひとり親家庭になったから、世帯の収入が減った。それだけではありません。毎月の家賃、光熱費、その他の生活費、税金も払います。幸い、職場は近くて好きな仕事ができています。なんとか生活は回っています。しかし、それは私と娘が元気な時はです。いつもそうだとはいりません。

娘が体調不良の時は、前の職場では有給休暇は使えず、病児保育に預けていました。

隣の区にあるので、自転車の後ろに乗せて片道30分。雨の日はバスを使いました。本数も少なく、娘の機嫌が悪い時は私も泣きたかったです。

転職してすぐ、有給休暇が出る前に娘が足を骨折しました。松葉づえが使えない時、トイレなどの移動介助は私の役目でしたから、仕事は休みました。

小学校へ入学して、胃腸風邪やインフルエンザの流行期もしのいで、なんと皆勤賞でした。もう大丈夫かなと安心していたら、先週から水疱瘡にかかり休んでいます…。

楽しい話が書けなくて、申し訳ありません。

今現在、私の財産は何かと考えました。月並みな表現になってしまいますが、娘の存在と健康です。一番大切です。だから、関東にも降りそそいだ放射能の影響を避けるため、千葉県から愛知県へ来たのでした。健康で、安心して働くために行政の力が必要です。放射能の管理がきちんとできていないのに、各地で原発の再稼働や岐阜の核融合実験開始なんて、安心できません。

文字通りワンオペ育児中ですので、子育ても支援も必要です。

しかし、どこに住むか決めていないということは、何年仮住まいを続けても実るものが少ないです。もちろんお金も…。私の名古屋での生活は移住でなく、避難だと感じます。夢や目標に近づくため、毎日が積み重なるような生活を送りたいです。

## 未来会議（未来会議 in 岡崎に参加して）

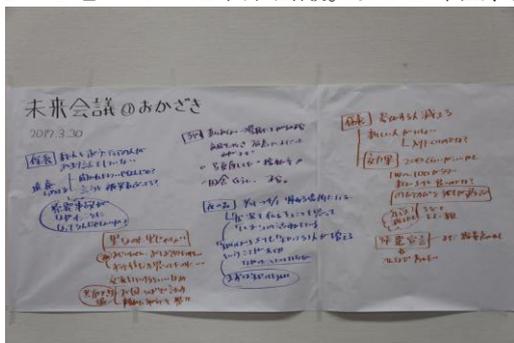
はじめまして。未来会議 in 岡崎に参加した林と申します。普段は、市民参加を促すことを目指してファシリテーターという立場で、話し合いの場やプロジェクトの促進のお手伝いをしています。近年、未来会議のスタイルでもある「ワールドカフェ」という進め方での対話の場が増えてきました。対話には、分断された人々をくっつける効果があるとされています。地域、家族、個人と分断されてしまっている、孤立感をもっている現代の人々を新たにつなげていくことが求められている時なのではないかと感じています。未来会議 in いわきの皆さんが展開していらっしゃることは、原発事故によって分断されてしまった地域や家族の関係を紡いでいくことになるのだろうと思います。

その未来会議 in いわきの皆さんに初めてお会いしたのは、2013年のゴールデンウィーク、福島市内の除染された果樹園でした。私が、ファシリテーターの仲間と一緒に福島の被災地を訪れていたときです。発足間もない未来会議の方々が、わざわざいわき市から福島市まで駆けつけてくださり、そこにいるみんなの想いを話し合ったのです。その想いを実現させるべく、一度は参加したいと思っていた未来会議。なんと今回、私



の地元、岡崎で行われるというご案内をいただきましたので、即、参加させていただくことにしました。霜村さんのお経で鍛えた声での進行は心地よく、対話の時間が進むにつれて、一体感を感じるようになりました。保養にいらした方や迎える側、そして異なる分野ではあるけれど今も3.11を忘れずに行動していらっしゃる方など、さまざまな立場の方と対話しました。こんなことを聞いてもいいのかなと迷うようなことでも率直に、活動の背景にある想いまでも語っていただけました。対話の中で、たくさんの分かったことや気づいたことなどがありました。例えば、こういうことは話題にはいけないのでは？と勝手に思い込んでいた自分を顧みることになり、私は配慮しているのではなく、向き合うことから逃げているのだなと気づきました。違和感をもった事柄があれば、まずは対話してみることが大切なのだと改めて思いました。終わった後でもまだ、自分の中でもやややが燻っています。こうやって心にひっかかっていることも対話の効果なのでしょうね。忘れることはなさそうです。

未来会議 in いわきの皆さんを岡崎にご招待して下さった方々に感謝します。



（ファシリテーター 林 加代子）

### ～田原まるごとbuffet～ に参加して

少しずつ春のやわらかい日ざしが感じられるようになった3月5日、田原市主催の交流会に参加しました。これまで4回も開催してくださっているのですが、「田原は遠いし…」と今までは足が遠のいていました。しかし、「旅行気分でご参加ください！」とのお声かけをいただき、初めての参加となりました。私たちの住む岡崎市からは、23号バイパスのおかげで1時間ほどで現地まで行くことができ、思っていたよりも遠くはありませんでした。

まずは、みんなで寄せ植え体験。植木鉢にビオラやアイビー、コニファーなど思い思いに植えました。庭のない生活を送って5年ほど経ちますので、家族みんなでの土いじりはとても久しぶりでした。何とも言えないこの心地よい感覚に、しばし浸りながら、植物のバランスを考えて楽しい時を過ごしました。

私たちが寄せ植えを楽しんでいる間に、市職員の皆さん、社会福祉協議会や、コープの皆さんが、田原の特産品を使ってたくさんのお料理を作ってくださっていました。田原と言えば、キャベツ！ブロッコリー！セロリ！私の大好物です。さらには海の幸、あさり。朝早くから釣りに出かけて、釣ってきたお魚のお料理もありました。手巻き寿司や焼きそば、お好み焼きなど、本当にタイ



トル通りのにぎやかさで、大人も子どもも夢中になって田原の幸をいただきました。

なぜ、こんなにも私たちのために…と考えていた時、調理を担当してくださった方が教えてくださいました。「地震が発生した時は、ハウスの中でテレビを見ながら作業をしていた。自分はいつもと何も変わらない場所でいつものようにテレビを見て、仕事ができているのに、このテレビの向こう側で起こっていることはなんと恐ろしいことか！今、何もできない自分はどうすればいいんだ！」と伝えてくださったそうです。そしてこういう想いが、次から次へと重なって今日につながっているということでした。「だから、何も遠慮することなく、存分に楽しんでください」とおっしゃってくれました。

最後にビンゴ大会があり、箱いっぱいのお野菜やお花をプレゼントしてくださいました。家に帰った後も、しばらくふんだんに田原の野菜に彩られた食卓が続き、大満足でした。

「震災から6年、今私にできることは何か」私自身も常に考え続けなければいけません。愛知の優しさに包まれる生活だけでなく、こちらからもたくさんの優しさをお返しできたらいいなと思います。

（あおぞら編集委員 小野佳奈）



## 支援制度紹介（活用しよう原発ADR）

原発ADRとは、東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下、原発事故）によって受けた損害の賠償を請求するための方法の一つです。避難等による実費損害は、原発ADRを利用することが有効的です。

東京電力からの直接請求をもらったからそれ以上に費用がかかっているか諦めている。自主避難で東京電力からの直接請求の対象にならなかったから仕方がないと考えている。そんなことはないでしょうか？

原発事故当初は、原発ADRについて東京電力への直接請求との関係や活用できる事案の範囲が分かりにくく、あまり活用されていませんでした。しかし、数年が経過し、多くの事例が積み重なってきたことから、有効に活用できることが分かっています。文部科学省のホームページにも和解事例が公開されていますが、どんな人にとってメリットがあるのかを少し解説します。

今、最も有効と思われるのは、自主的避難対象区域といわれる強制避難区域以外の福島県内などのからの避難者です。避難による家財道具の購入費などの実費や二重生活に基づく生活費増加分（月3万円）、避難雑費（子ども一人あたり2万円）が一定の時期分（平成27年頃）まで支払いをされています。これらの金額は原発ADRの申し立てをすれば、ほぼ確実にもらえる状況にあります。また、二重生活者が面会のための交通費や避難により病状が悪化した際の治療費、一時的な就労が不能になった際の就労不能損害などが認められている事例があります。

自主的避難対象区域ではない、強制避難区域からの避難者は直接請求による賠償により一定程度保証されているため、直接請求を超える損害が必要となりますが、事情

により多額の実費が発生している場合や高齢者、障がい者を抱える家庭で特別な事情を有する場合など、東京電力からすでに費用をもらっていても特別な事情を抱えるケースでは、直接請求との差額分が認められています。

原発ADRの欠点としては、個別の事情によって判断されますので、人によって認められる内容や金額が異なること、かかった損害を一定程度証明する必要があることです。また、福島県外からの避難者の場合は、原発ADRでも損害が認められることが非常に厳しいです。（自己で自宅の除染を行った場合の費用など一部認められているケースもあります。）

原発ADRのことは、意外に知られていませんが、何もしなければ、本来もらえる金額をもらえず損をしてしまいます。上記については、一部を紹介したに過ぎません。申立ては、自分で行うこともできます（文部科学省のホームページで公開）し、弁護士・司法書士であれば代わりに手続きを行うことが可能ですので、ぜひ、機会があれば相談して下さい。もっと具体的に話が聞きたい場合は、被災者支援センターを通してご連絡をいただければ、随時対応いたします。

QRコード



文部科学省 HP

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/genshi\\_baisho/jiko\\_baisho/detail/adr-center.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/genshi_baisho/jiko_baisho/detail/adr-center.htm)

（司法書士 林一平）

## 支援団体紹介①（トヨタ自動車）

### （「ふくしまサクラモリプロジェクト」に参加した趣旨と当日の状況）

4月1日（土）に弊社本社工場内敷地で「ふくしまサクラモリプロジェクト」の植樹式を実施いたしました。当日はあいにくの雨天になってしまいましたが、福島県より愛知県に避難されておられる6組16名のご家族の皆さまにご参加いただき、弊社の従業員ボランティアと共に楽しく交流しながら一緒に福島県産のソメイヨシノの苗木を33本植樹することができました。

弊社では2011年の東日本大震災以来、復興支援活動を実施し、その一環として一般財団法人「福志会」が実施されている、「ふくしまサクラモリプロジェクト（以下同プロジェクト）」に2015年より参加しております。同プロジェクトでは「日本全国のいたるところで福島県産の桜を咲かせ、日本全国の街と福島をつなぐ新たな絆を築く」という趣旨で、桜を植樹する活動を継続されておられます。弊社では同プロジェクトの趣旨に賛同し、いくつかの取り組みを継続



的に行って参りました。毎年春に実施しておりますクラシックコンサート「トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン」において、2015年から売り上げの一部を同プロジェクトに寄付し、また全国車両販売店のひとつであるトヨペット店で、1976年より継続しております植樹活動の「トヨペットふれあいグリーンキャンペーン」にて、植樹活動で使用する苗木の一部をご提供いただいております。

この度の植樹式は復興や未来への願いを込めて開催させていただきましたが、ご参加されたお子様方が一生懸命に穴を掘ってくださった姿が大変印象的でした。また植樹式の後に懇談会を開催いただきましたが、参加者の皆さまと直接交流することができました。ご参加いただきました皆様と愛知県被災者支援センターのスタッフの方々には心よりお礼を申し上げます。

### （愛知県へ避難されている方へのメッセージ）

震災から6年が経過いたしました。弊社ではまだ十分復興したとは言えない状況だと認識しております。私どもは皆様と一緒に植樹した桜の成長を見守り、この桜を通して、少しでも福島を身近に感じる事ができたらと思っております。植樹された桜を大切に育てていくことで今私たちに何ができるのかを引き続き考えてゆくきっかけとさせていただき、この機会に弊社を少しでも身近に感じていただければ幸甚に存じます。

## 支援団体紹介②（外国人ヘルプライン東海）

当団体は、地域で暮らす外国人住民の困りごとの解決を通じて、多様な背景をもつ人々がともに助け合って暮らせる地域社会の実現を目指し、月一回の多言語相談会、通訳派遣事業などを実施しています。愛知県被災者支援センターには、一昨年からの協力をいただいております。相談会や家庭訪問時の通訳派遣、イベント案内やお知らせの翻訳を受託しております。

愛知県内には、現在判明しているだけで約 25 世帯の外国にルーツをもつ被災者の方々が生活しております。中国、ペルー、フィリピン、韓国、ブラジル、インドネシアなど、出身地も多岐にわたります。

祖国を離れて暮らす外国の方々がかんまりごとを抱えた時、頼りになるのは、本国の親族や友人はもちろん、教会などの宗教団体、日本で暮らす同国人のネットワークです。

これらに加えて、近年では行政の役割も相対的に大きくなってきていると思われるます。とくに本国や、これまで住んでいた地域から遠く離れて暮らす被災者の方々にとっては、愛知県被災者支援センターや市役所などは、困った時にとっても頼りになる存在と思われます。

外国人住民の方々にとって、日常生活で大きな壁となっているのは「言葉の違い」です。会話に堪能な方でも、行政文書を読むことができ、正しく理解できる方はとても少なく、このことが、外国人住民が補償や福祉サービスにアクセスしにくい理由ともなっています。また、行政や福祉に対する考え方がそれぞれの国によって異なることも、行政サービスに繋がりにくい原因ともなります。



さらには、困った時、悩みごとをどこかに相談したい時、辛い気持ちや悲しい気持ちを母語以外の言葉で伝えるのは大変な困難を伴います。自分の内面や複雑な状況を日本語で表現することが億劫になり、あるいは話しても理解されないと思ひ込んでしまい、どこにも相談できないまま、また実際に相談しても正しく伝わらず、問題を悪化させてしまうケースがあります。

私どもは、こうした活動の経験を踏まえ、相談会交流会などのイベントの案内文の翻訳や通訳の派遣を提案し、センターのみなさまには提案を快く受け入れていただきました。

1995年の阪神淡路大震災後、防災情報の多言語化など、外国人住民への取り組みは、飛躍的に増えました。しかし、不幸にして災害にあってしまったとき、言葉も文化も違う被災者にどう寄り添っていくのか。生活再建をどのようにサポートするのか。多いに議論が必要であると思います。私たちは愛知県被災者支援センターとともに活動を行いながら、来たる災害に備えて外国人被災者の生活支援について考え、この地域にも積極的に発信していきたいと考えています。

## ボランティアスタッフ紹介 ～ 采女久子さん ～

支援センターのボランティアスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。  
第11回は采女久子さんです。

東日本大震災が起こった時、私の兄一家は仙台市に住んでいました。名古屋市の実家に、兄から全員無事の一報が入りましたが、心配しながら次の連絡を待ちました。そして原発事故が起こったため、兄夫婦の希望で4人の甥と姪をひと月ほど名古屋で預かりました。甥たちが兄のもとへ帰った後、今の自分にできることを探して、支援センターのボランティア募集を見つけました。平日は時間が取れないため、主に週末を中心に交流会やイベントのお手伝いをしています。

この震災は決して他人事ではありません。今も辛い状況にある方がいることを忘れず、この地方にも起こるであろう災害に備えて、今後も自分にできることを考え続けていきたいと思います。



## 支援センターからのお知らせ

### <編集後記>

- ★新緑の美しい公園を散歩して、久しぶりに図書館で絵本を借りました。(T.N)
- ★2級ボイラー技士免許を取得しました。小規模ボイラーを取り扱えるようになりました。(J.I)
- ★東日本大震災後、これまでのぜいたくな暮らしに反省の声が多く上がった。同じ言葉が阪神大震災でも語られていた。ではどのような暮らしのあり様を目指して行くのか？一緒に考えましょう。(H.T)
- ★福島県へ帰還されたSさんに会いました。「愛知が懐かしい」というSさん。これから故郷で新しい生活基盤を築いて、人生を楽しんで欲しいと思います。(K.T)
- ★今年は桜をたっぷり楽しむことができました。が、あっという間に新緑の季節です。季節の変わり目どうぞお身体ご自愛くださいませ。(E.K)
- ★先日、少し…?年の離れた友達と釣りに行きました。釣果は…でした。また一緒に行きたいと思っています。(H.I & A.I)
- ★親子で海つりを体験して、つりの楽しさが初めて分かりました。最近忙しさを理由に自然の中で過ごす時間を後回しにしていました。連れ出していただいで感謝しています。(Y.Y)

### <6月の交流会等イベントカレンダー>

開催日	イベント名	開催地域
6月10日(土)	第57回囲碁クラブ交流会	東区
6月11日(日)	甲状腺エコー検診&交流相談会「みんなのば」	北区

- 6月のイベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

あおぞらに関する  
ご意見ご感想はこちら



〒460-0001  
名古屋市中区三の丸3-2-1  
愛知県東大手庁舎1階  
愛知県被災者支援センター  
TEL: 052-954-6722 FAX: 052-954-6993  
Mail: aozora@aichi-shien.net